

## 重症児等とその家族に対する支援活動応援助成 第2回

### <助成決定にあたって>

2023年6月2日  
社会福祉法人中央共同募金会

#### 1. 応募状況

- (1) 応募総数 44件
- (2) 応募総額 1億6,788万円
- (3) 応募団体の内訳
  - ①団体の所在地域…東京都10件、神奈川県5件など、全国の19都道府県から応募が寄せられた。
  - ②法人種別…NPO法人（認定NPO法人を含む）が最も多く27件あり、法人格のない団体も5団体あった。

#### 2. 助成決定状況

- (1) 採用件数 23件
- (2) 採用案件の助成総額 7,856万円

財源が限られていることから、応募要項に照らし合わせて審査を行い、必要性や資金的な緊急性が高い活動であると応募書から判断されるものを優先して決定しました。

#### 3. 助成決定にあたって ～審査委員長コメント～

2021年9月に医療的ケア児支援法が施行され、保育所や学校等における看護師配置などが自治体の責務となるなど医療的ケア児の地域生活を支える制度が整備され、その結果、支援や相談の拠点となる「医療的ケア児支援センター」は全国8割の自治体で設置されました（※1）。一方で、移動・通学支援、日中や緊急の預かり支援、学校や通所サービスでの高度な専門知識と経験ある看護師等による支援のさらなる拡充が求められている状況です（※2）。

また長期化した新型コロナウイルスの感染拡大の影響により、医療的ケア児、難病児、重度障がい児やその家族が、サービスの利用や面会・付き添いに制限がかけられたり、社会体験や学習機会が減少したりすることによって、引き続き困難な状況に置かれている現状がありました。

本助成は、2022年に実施した第1回助成に引き続き、こうした子どもや家族を支援する活動を、資金面から応援することを目的として実施いたしました。

長期化する新型コロナウイルスの影響により、厳しい環境にある人がより厳しい状況に置かれ、なかなか声を上げることができないなか、必要な人に必要な支援を届けることで、こうした領域の活動に光を当てることができることは、社会にとって大きな意義のあるものと感じています。

本助成には、全国から44件の活動の応募をいただき、審査委員会において各活動内容を精査し、送迎支援や入浴支援、屋外体験活動など医療的ケア児の活動を広げケアを充実させるための事業、医療的ケア児の母・父・きょうだい同士や、医療的ケア児の家族と支援者たちのピアサポートや交流の場づくり、重度の身体障害者のためのオンラインIT学習事業、医療的ケア児と健常児との交流を目指すスポーツ活動など、23件を採択いたしました。

医療的ケア児やその家族を支えるための、さまざまな観点からの幅広い活動や、多様な規模の団体から多くの応募をいただきました。少しでも多くの活動を応援したいという審査委員の思いもあり、審査には大変苦慮いたしました。今回の採否にかかわらず、どの活動も当事者や社会にとって、大きな財産であると考えております。

医療的ケア児支援法が施行され各自治体においては支援制度を整備しているものの、実態に照らすとまだ制度が不足している地域もあることが応募書から読み取れました。採択団体におかれましては、本助成を活用し蓄積した実績をもとに行政や他の民間組織等との情報共有や連携を進め、地域に必要な支援体制構築の一助になっていただくことを期待いたします。

本助成が、医療的ケア児や家族への支援を社会に広げる契機となることを願っております。

「重症児等とその家族に対する支援活動応援助成」審査委員会  
審査委員長 石 渡 和 実

#### 参考文献

※1：NHK サイト <https://www3.nhk.or.jp/news/html/20220918/k10013824731000.html>

※2：厚生労働省「医療的ケア児者とその家族の生活実態調査報告書」の結果の考察とその後の法的支援について 松井 由美子著 [https://doi.org/10.34540/niigatajohewewa.21.3\\_92](https://doi.org/10.34540/niigatajohewewa.21.3_92)